

サンプルデータの経営についての考え

氏名 大山太郎

H27年～G2年

部門 乳牛、梨、野菜

注意。 このサンプルはこのソフト(アプリ)の動きを確認するためにいろいろなところいろいろな数字が入れてあります。よって、矛盾点も多々あると思いますが、所得と、借入金、償還財源算出表、予定貸借対照表について数値の結果を見ての営農の見どころです。

H29年にマニュアルスプレッダーを購入することにした。資金は借入金を充てる。
27年の実績は、所得が362,000円で今年の償還額に足りない事が償還財源算出表からわかる。
でも所得では(-)と出ていないので所得だけ見ても分からない。そこで母より250,000円を借り受けて支払い27年は終わる。
その結果が貸借対照表の長期借入金が減り、短期が増えていることで解る。
借入金は所得とは関係なく動くので所得があっても将来借入金が無理なく返せるのか借入金台帳と償還財源算出表を確認しながら計画を立てねばならない。

さて、その後28年度ではどうだろう。27年と変わらない程度の所得(353,000円)ですが建物が終わり金銭的には余裕が出来、借入金の償還も短期も含めて支払が出来た。

29年度は収入も増えてマニュアルスプレッダーを新規に購入したが、200,000円程足りないことが償還財源算出表で解る。
この場合も所得が1,140,000円もあるので足りないとは考えにくいのだが。
これも母に頼んで借り受けて乗り切る。全く、この表がないと分からない。

30年度は売上収入がさらに増えて所得も164,000円となり、順調だ。

ところで災害というもの突如やってくるものだ。正月明けの大雪、春先から梅雨入りにかけての大風、夏の干ばつ、秋の台風、長雨大雨などだ。

そこで新元号1年度は台風によって売り上げ収入が1,000,000円下がった。
所得は622,000円で乗り切れると思いきや、償還金が210,000円足りない償還財源算出表が示している。
それで今度は父から借り受けることにした。
これもこの表がないと分からない。農協からの催促で気が付くものです。早いうちの用意しなければいけない。

G2年度は収入が戻り所得も上がり償還金も長期短期とも返済しても464,000円の現金が残った。

以上でサンプルのデータが作られているが、収入の全体と支出の全体が見えないとう上手くはいかないと思います。特に、家計費に対して甘い感覚があると思わず使いすぎてしまうものです。そこで、農業経営ストラック図では、家計費が入っている事業主貸を純家計費と純家計費外に分けて表示してあります。純家計費がどの程度の余裕があるのかわかります。
当然、純家計費を増やすと経済余裕金が圧迫を受けてしまいます。
このように、所得の金額から差し引くべき必要な償還金に注意しながら、そして家計費も考えながらの計画が立てられます。

借入金に関しては経営収支計画表には出ません。そこで必ず借入金台帳に書き込みます。営農だけでなく家計的借入も、すべて書き込めば安心して管理できます。
借入金も含めて最後に予定貸借対照表が作られます。この表が営農経営の全体を示しています。元入金が減る経営はだんだんと自分の首をしめると思ってください。

部門別生産計算書では部門ごとにそして単位当たりの金額が出ます。県の指標とか国の指標などで比べることが出来ます。また法人経営をされている農園では農企業利潤も考慮する指標となります。
損益分岐点分析でシミュレーションをしてもよいでしょう。またそれぞれのグラフも視覚的によく理解できると思います。

農業従事時間もきちんと計画を立て実際に無理なく作業が出来るのか、出来ない場合の雇人を確保についても計画が立てられます。最近では労働時間の管理にうるさくなってきています。月間の目標最高限度労働時間を決めてこれを超えないように計画出来るように家族個人の月間労働時間表もあります。

将来に輝きある農業営農計画が立てられるように応援します。